

# コンクリート減容処理設備について



東京電力ホールディングス株式会社

## 1. コンクリート減容処理設備が破碎できる最大形状サイズ

単体（1個）投入時：200mm×200mm×600mm

複数個投入時：200mm×200mm×400mm

- ・連続的に破碎できる形状は、歯の間隔が約200mmであるため、歯が引っかかるようにできる200mm×200mm長さ方向1辺400mmが最大である（図1）。
- ・単体破碎の場合、投入時のホッパ形状（1000mm×800mm）を考慮すると、長さ方向1辺600mmが最大となる（図2）。

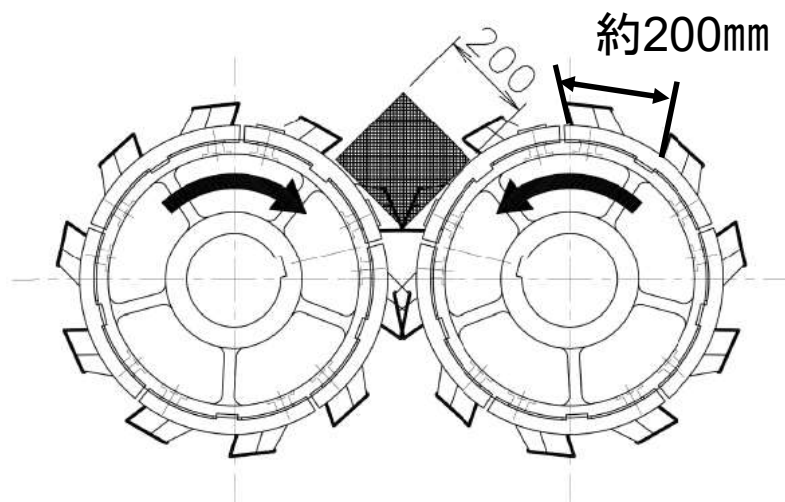


図1 廃棄物最大断面図

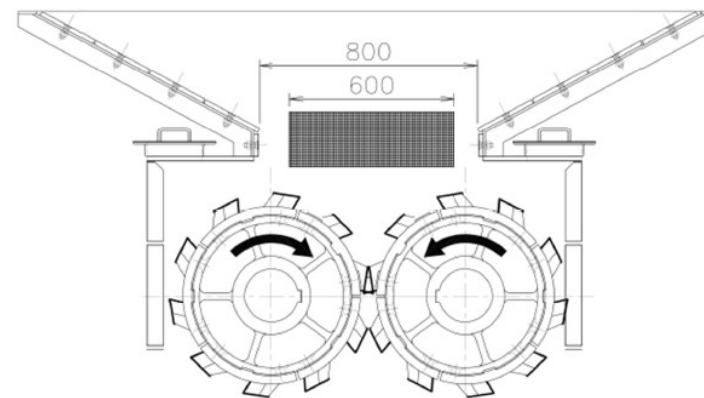


図2 ホッパ投入断面図

## 2. 2021年3月25日面談資料

p49に記載がある「1辺が600mm程度の大きさまで破砕可能」は、単体で廃棄物を投入した時に長辺の1辺が600mmという記載であり、断面としては200mm×200mmが最大である。連続運転を考えず単体で破砕できる最大形状は200mm×200mm×600mmとなる。

なお、実運用では、コンクリート減容処理設備に投入する前段階で重機を用いて鉄筋の除去を目的に粗破砕を行い廃棄物を小さくする。その際、廃棄物は、200mm×200mm×400mm以下の大きさになると想定している。

この大きさの廃棄物を破砕することにより、同面談資料p4に記載がある「処理容量約40m<sup>3</sup>/日」に影響はない。

## 3. 使用前検査（社内）で使用する模擬廃棄物について

使用前検査（社内）の機能確認におけるコンクリート減容処理設備の模擬廃棄物は

- ①単体（200mm×200mm×600mm以上）の破砕
  - ②複数個（200mm×200mm×400mm以上）を同時に投入し破砕
- 上記2通りで機能確認を実施する。